

週刊 タバコの正体

先週、皆さんにタバコに関する意識調査に協力してもらいました。質問の中に「タバコの値段は高い」と「タバコの値段は安い」という項目がありましたよね。どちらに○を付けましたか。1箱430円前後もしますから、「タバコの値段は高い」の方を選んだ人が多かったのではないのでしょうか。

ところが、下のグラフを見てください。高いと感じている日本のタバコは他国に比べて安いのです。現在1ドル≒120円なので、米国、フランス、ドイツでは約700～800円、英国、オーストラリアでは、なんと1000円を超えています。

タバコ1箱が1000円もしたら、買う人なんていないのでは、と思いますよね。

じつは、これらの国のタバコ代が高いのは、それが狙いなのです。つまりタバコを買う人を減らすために、あえてタバコにかかる税金を高くしているのです。

現在、世界中でタバコが原因で亡くなる人は毎年600万人以上もいる事を知っているでしょうか。これほど多くの人を命を奪うタバコを、このまま放置しておくことはできないと、WHO(世界保健機関)はタバコの消費を削減することを目的に『たばこ規制枠組み条約』を制定し、日本も含む170カ国以上がこの国際条約を批准しています。

この条約を締結した国は、タバコの消費を削減する対策を講じる義務があるので、グラフにあるようにタバコ代を高くしているわけです。各国の事情は異なるので、タバコ代が上がる時期は統一されて

いるわけではありませんが、国際条約を締結している日本も、WHOとの約束を守りタバコの消費を削減するために、いずれもっとタバコ代があがる日が来るでしょう。

今、タバコを吸い始めてしまうと将来1000円もするタバコを買い続ける事になるかも知れません。こんな事情も知っておいて下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久

